

令和3年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院天王寺校

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性をみつけ、才能を開花させる学校。
育てたい生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 特化型コース・専攻で「好き」や「得意」を追求する生徒。 自ら考え、自ら学ぶ力を身につけ、何事にも主体的に行動できる生徒。 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒。

本年度の重点目標	1 特色重視の特化型教育で生徒一人ひとりの才能を開花させる
	2 教科横断型の探究授業、企業・地域連携授業による非認知能力の向上
	3 大学進学率（60%）と質（上位難関大学：5名以上）の向上

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

- ※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
- ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。
- ※ 学校評価委員会は、高等学校教諭、関係企業代表取締役、卒業生代表で実施した。

- ※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
- ※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自 己 評 価					年 度 評 価 (R4年6月1日現在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (R4年6月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	<p>現状></p> <p>特化型教育としてコース制開設1年目。カリキュラムの確立と実績作りが必要。また、専門授業の実施にあたり、施設・設備といったハード面のさらなる整備も必要である。中学校時代に不登校を経験した生徒も多く在籍し、基礎学力の定着が必要である。</p> <p>課題></p> <ul style="list-style-type: none"> コース授業の指導内容の精査 生徒たちの学力や習熟度の把握 進路への意識づくり 	実施している授業の定期的なチェックと指導内容の見直し	・管理職による授業見学と定期的な授業アンケートの実施	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックができたか。	・定期的に実施でき、改善を図ることができた。	A	<p>コース授業については、常に時代の最先端の学びができるよう、情報収集をしていく。また生徒のニーズについてもアンケートにより把握していく。専門的な学びが、将来の自己実現に繋がるよう、職業観の育成を図るべく、キャリア学習の確立を図る。家庭学習時間をアプリの活用で可視化することにより、生徒へ適切な声掛けができるようにし、学習習慣の確立及び学力の向上を図る。</p>
		個々の成長を可視化できる仕組みを構築する。	・基礎学力チェックテストの実施 ・外部コンテストへの参加	・基礎学力（中学校分野）の定着が図れたか。 ・外部コンテストにおいて、入賞することができたか。	・出席不良生徒について、基礎学力の定着が充分には図れなかった。 ・外部コンテスト入賞3件（YouTube甲子園・白板アート・ピリオパトル）。	B	
		専門授業に実施にあたり必要な施設・設備を整備	・年初及び学期ごとにコース長会議を実施。必要なハード面についてヒアリング。	・計画通りに実施でき、且つ、必要な機材等の整備ができたか。	・デジタルクリエイターコースのMacブックやタブレットの整備、eスポーツコースのゲーミングPCの設置などを行った。	A	
2	<p>現状></p> <p>探究学習として、机上のアイデアで終わらず、実際のモノ（イベント）を創り出す学びができており、外部との連携により学内に留まらない学びへ発展させていく。生活指導面においては、挨拶など礼儀は良好であるが、生活規律の維持、向上には粘り強い指導が必要である。外部の方と接して行く中で、ビジネスマナーを身につけ、社会の一員としての視点から自分を律する生徒を育てていく必要がある。</p> <p>課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業連携（連携企業の選定） 実施内容の外部発信 生徒指導面の徹底（挨拶・身嗜み・出席状況の改善） 	地域・企業・大学等の外部関係機関との連携を強化。	・地域・企業・大学等の講演会や、連携講座の開催やイベントの共催	・外部の方の講演会やイベント等が開催できたか。 ・参加者の満足度	・SDGsマルシェの開催など、多くの企業・団体と連携し、イベントを開催でき、生徒の主体性や表現力、協働性を伸ばすことができた。	A	<p>特定のコースに限ることなく、学内でノウハウの共有を図り、全コースにおいて、外部との連携を深めていく。また、長期的な関わりを築く中で、より学びを深めていきたい。入学生の中で、中学校時代に不登校を経験した生徒も多く、登校不安が大きい生徒も多い。そのため、入学前登校（プレ登校）の充実を図るとともに、コミュニケーション力の育成のための独自のカリキュラムを導入する。</p>
		オンラインを活用した新しい繋がり方の創出。	・オンラインによる起業家やクリエイター等の講義や、連携校との合同イベントの開催	・オンラインでの講義・講演会等が開催できたか。 ・参加者の満足度	・オンライン講演会を開催、連携校生徒の参加も募り、約1,000人の参加があった。 ・単発の企画になり、学びを深めることができなかった。	B	
		身嗜み（服装・頭髪）を整えるための指導。	・ビジネスマナー講座の開催 ・定期的な服装・頭髪指導期間（強化週間・月間）の設定による指導の徹底。	・定期的な実施ができたか。 ・服装・頭髪の乱れを是正することができたか。	・コロナによりビジネスマナー講座については予定通りの実施はできなかった。 ・学内での指導期間は計画通りだったが、繰り返し指導となり、全生徒の定着とまでは至らなかった。	B	
3	<p>大学進学></p> <p>近年大学進学率は55%程度で横ばいになっている。本来、大学進学を目指す生徒が、専門学校を選択するケースもある。また難関大学進学希望者について、浪人生が出ている。</p> <p>課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次からの進路指導の徹底 多様な入試制度に対応した対策の徹底 難関大学志願者の学習フォロー 	適切な進路選択の機会を提供	・進路ガイダンスの実施 ・外部進学説明会への参加	・進路ガイダンス及び外部進学説明会への参加が適切に実施されたか	・コロナで実施出来なかったイベントもあり、予定していた回数・内容を実現できなかった。	C	<p>系列大学を含め、早期に大学見学などの機会を提供し、進学に向けて動きだせるように生徒を育成する。 国公立大学や難関私大への合格を目指し、学路上位層の進路指導を拡充する（EdTech教材を活用）。</p>
		定期的な進路希望の把握	・進路希望調査（4月・7月・10月・2月） ・二者・三者面談（5月・3月）	・生徒の進路希望の状況をタイムリーに把握できているか	・進路希望調査及び面談を計画通り実施できた。	A	
		個々に応じた丁寧な進路サポート	・難関大進学希望者の放課後及び長期休み期間の補講の開催 ・進路選択における第二・第三志望校選定までの進路指導	・計画に基づき、放課後講座等が適切に実施されたか ・志望校を複数校設定することによる浪人の防止ができたか	・大学・短大進学率59.1%、早稲田大学・関西学院大学等、難関大学にも合格。 ・放課後講座等は、計画通り実施できた。 ・見込みに甘さがあり、結果的に浪人生が出てしまった（4名）。	B	

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和4年10月13日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>卒業生からは、各授業の教員による巡回とその際の教員の声掛けが効果的であり、学習の定着や学習成果発表会での発表内容の改善に繋げることができたとのこと。関係企業からは、各コースの授業において、学んだことを実践として生かす機会が設けられており、且つ、PCやソフトなどが整っている関係からクオリティの高い制作物等ができたこと評価頂いた。</p> <p>特化型教育としてコース制開設1年目であったが、ハード面・ソフト面ともに改善を図りながら生徒のニーズを常に吸い上げ、しっかりとした実績を残せたと考える。</p> <p>今後の課題としては「1対1対応」をさらに強化して、まずは出席不良生徒の出席促進に力を入れ、入学希望の上位にある基礎学力の向上と定着を図ってほしい。卒業生からは、授業内でのグループワーク等を通じて自分の意見を発信できる力（勇気）を伸ばしていければ、学校生活が楽しみになり、登校に繋がるのでは、と意見をいただいた。</p>	
<p>目標としていた外部との連携により学内に留まらない学びへ発展させていくという部分においてはSDGsマルシェの開催など、多くの企業・団体と連携し、イベントを開催することができていた。コロナ禍ではあったが、生徒達は主体性や表現力、協働性を意識することができていたことも評価することができる。</p> <p>関係企業からは、連携面において教員としっかりコミュニケーションを取りながら講義等を進めることができ、非常に円滑だったと評価頂いた。生徒についても、回を重ねるごとに、自分の意見を言うようになり、しっかりと議論ができたとのこと。</p> <p>オンラインの活用（ハイブリッド型）はある程度できていたと考えるが、コロナ禍で自宅等でオンライン出席の際のガイド（ルール）があるべきと考える。卒業生からは、大学入試の際に、礼作法の必要性を強く感じたため、ビジネスマナー講座は、是非やってほしいという意見を頂いた。</p>	
<p>卒業生からは、三者面談等で教員から適切な助言をもらうことができ、進路決定に繋がったとのこと。進路ガイダンス自体は、3年生の春には開催できた良いとのことだった。</p> <p>また、進路ガイダンスこそオンラインの有効活用ができるのでは、という意見も頂いた。浪人生が4人出た点について、全体の比率としては少なく感じ、多くの生徒が自己の目標を実現できたことは評価できる。</p> <p>今後も進路実現に結びつく放課後講座等を継続するとともに、EdTech教材の活用を強化し、浪人する生徒にも寄り添い続けて欲しい。また、多種多様な入試制度を全教職員が把握できるような研修等の強化も希望する。</p> <p>また課題として、一般入試での受験希望者の3年生の出席率の低下があげられる。学校で学ぶ意義をしっかりと伝えていくことと、学習するスペース（自習室）の確保等も検討すべきである。</p>	